

3 資料の収集

(1) 資料選択基準の策定

19年度に策定し20年度から実施している「愛知県図書館資料収集方針」に基づき、20年度は、さらに各資料、各分野について具体的な選択基準を討議し、「愛知県図書館資料選択基準」を策定した。この基準は、21年度から資料選択の際に活用されることとなる。また、この基準の策定に伴い、「愛知県図書館・短期資料収集方針」（15年4月1日実施）は廃止となった。

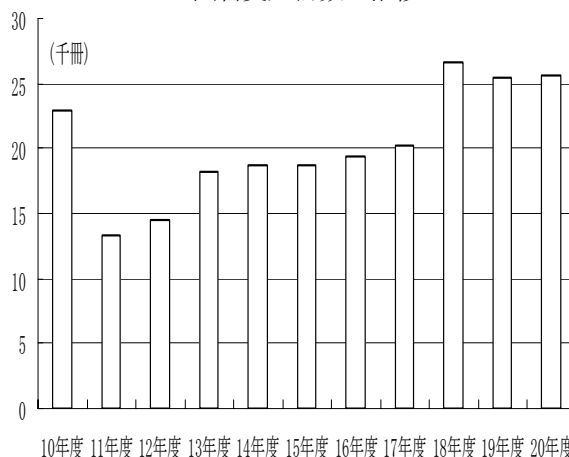
(2) 図書の収集状況

20年度は、合計25,564冊の図書を受入れた。

その内訳は、購入が和書20,677冊、洋書213冊の計20,890冊。寄贈が和書4,263冊、洋書182冊の計4,445冊。貸出文庫用図書からの管理区分の変更による和書の受入れが229冊であった。全体としては昨年度並みの収集実績を挙げることができた。

近年、利用者のリクエストによる購入が増加傾向にあり、20年度は859件受付けた。リクエスト購入の図書は、発注から配本まで迅速に対応し、できるだけ早く利用者へ提供できるように努めている。

図書受入冊数の推移



(3) 新聞雑誌の状況

19年度から国内発行のブロック紙の受入を再開することとし、19年度中に4紙を受入れたが、20年度はさらに「河北新報」「中国新聞」の2紙の受入れを始めた。これにより、国内全ブロックをカバーできることになった。

(4) 視聴覚資料の収集状況

20年度は、映像資料414点と録音資料319点を受入れた。内訳は、DVD345点、ビデオテープ41点、レーザーディスク28点、CD319点である。受入点数は、前年度の40%増となった。映像資料は広報用のDVD等の寄贈が多かった。録音資料は個人からまとまった寄贈があった。

4 図書館サポーター

(1) おはなし会

定期的なおはなし会開催の要望に応えるため、19年度におはなし会のサポーターを募集し24名に研修を行った。研修修了後、登録された方にサポーターとなっていただき、職員とともにおはなし会の運営にあたっていただいている。20年度の登録者は17名で、毎月第1日曜日と第3土曜日及び夏休みのおはなし会（年間24日開催、1日2回）では、読み聞かせや紙芝居、手遊びなどを行った。

(2) 資料補修

破損・汚損した図書の補修を行っていただく資料補修サポーターは、3名の方が登録し活動していただいた。破損した表紙を綺麗に補修してブックカバーをかける作業が中心であった。

5 県内図書館の動向

20年10月1日、日進市立図書館が、11月1日には岡崎市立中央図書館が、ともに新築移転してオープンした。日進市立図書館は、延べ床面積6,100㎡、蔵書可能冊数は48万冊。岡崎市立中央図書館は複合施設の

一部で、延べ床面積8,000㎡、蔵書可能冊数100万冊の規模を有し、おのこの特色ある最新の設備を導入している。また、7月19日には小牧市立図書館が、小牧駅近くの再開発ビルに、乳幼児向けサービスの充実を目指し「えほん図書館」を開設した。

20年1月15日現在、愛知県内の市町村61のうち、図書館設置市町村は50(34市15町1村)、未設置市町村は11(1市9町1村)で、図書館設置率は82%である。

21年10月1日には清須市と春日町の合併が決まっている。また、七宝、美和、甚目寺の3町は22年3月31日までの合併を目指し合併協議会(法定協議会)を設置した。これにより、愛知県内の市町村は21年度中に58となり、図書館設置率は86%となる見込みである。

20年4月1日、美和町図書館で指定管理者による運営が開始された。先に導入している、新城図書館、幸田町立図書館、江南市立図書館、津島市立図書館の4館に加え、県内で指定管理者制度を導入した図書館は5館となった。また、21年4月からは、蒲郡市立図書館、常滑市立図書館、知多市立図書館、高浜市立図書館の4館で導入される。

6 県図書館団体の動向

(1) 全国公共図書館総合・経営部門研究集会

21年1月22日、23日の2日間、当館大会議室を会場に、(社)日本図書館協会公共図書館部会、全国公共図書館総合・経営部門研究集会実行委員会、愛知県公立図書館長協議会の主催、愛知県図書館の主管で、「平成20年度全国公共図書館総合・経営部門研究集会」を開催した。「市民とつくる図書館」のテーマのもと、図書館活動への市民の参画と協働について、中川幾郎氏による基調講演、岡崎市、町田市、鯖江市の図書館員と市民それぞれの立場からの事例発表、講演者、発表者全員によるパネルディスカッションを行い、全国から164名の参加を得た。

(2) 愛知県公立図書館長協議会

20年4月17日開催の定例会で設置が認められた「ヤングアダルトサービス連絡会」は、9月18日に第1回の総会を開催した。総会では美浜町、田原市両図書館の実践報告と、参加者による情報交換が行われた。また、「ブックレビューデータベース」の運用が10月から始められ、21年4月からはインターネットを利用した情報交換の場として「YA掲示板」の運用を開始する。

20年度に愛知県公立図書館長協議会の実施した研修は次のとおりである。

第1回 「いま図書館に何が求められているかー図書館の現状と図書館員の役割」(講師:田井郁久雄氏)

第2回 「魅せる図書館ー伝わる情報発信を考える」(講師:押樋良樹氏)

第3回 愛知図書館協会の児童サービス研修公開講座「ブックトークー子どもと本をつなぐ魅力的な方法」(講師:北畑博子氏)を共催した。

第4回 「平成20年度全国公共図書館総合・経営部門研究集会」を共催した。

(3) 愛知図書館協会

愛知図書館協会が実施する研修は連続受講形式で、講義と演習の組み合わせを原則としている。20年度に実施した研修は次のとおりである。

ア 児童サービス研修:全4回の連続受講形式。うち、「ブックトークー子どもと本をつなぐ魅力的な方法」(講師:北畑博子氏)を公開講座とした。

イ レファレンスサービス研修:全4回の連続受講形式。うち、「近世尾張史調査の基本的文献」(講師:種田祐司氏)と「レファレンスの技法」(講師:井上真琴氏)を公開講座とした。

ウ 広報研修:「Wordでチラシを作ろう」(講師:伊藤勇吉氏) 講義と実技を組み合わせた研修。

エ IT研修:愛知淑徳大学の協力を得た、講義と実習を組み合わせた2日間の研修。